

基本目標 1

子どもを生み・育て、将来にわたり暮らし続けたいまちを実現



事業の推進状況概要

○スマートフォン向けアプリケーションを活用した出産・子育て情報の提供

青梅市子育てアプリ「ゆめうめちゃんの子育て・予防接種ナビ」を活用し、子育て支援情報の提供、予防接種や健診の時期をお知らせする等、妊娠期から子育て期まで切れ目なく必要な情報を提供した。

登録児童数 1,398人(令和元年9月末)

2,226人(令和3年3月)



子育てアプリメニュー画面

○妊娠・出産・育児によりそう「子育て世代包括支援センター」

「子育て世代包括支援センター」において、妊娠・出産・育児に不安を抱える妊産婦に寄り添い、出産や子育てに関する相談にワンストップで対応するほか、子ども家庭支援センターや子育て支援センターと連携し、切れ目のない支援を実施した。

利用者件数 1,029件(平成30年度)

1,090件(令和2年度)

○教育のICT化推進事業

全小中学校に無線LANアクセスポイントによる校内ネットワークを整備するとともに、全小中学校の児童・生徒に一人一台の学習用端末の整備等を行った。
また、教職員への情報セキュリティ研修を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響

- ▼ ・子どもの遊び場や保護者の交流の場の提供等
子育て広場事業を4/9～5/31の間休止した。
- ・短期臨時学童保育事業
→サマー学童(夏季休業中の臨時学童保育所)を中止した。
- ・学力向上事業
→緊急事態宣言中において、サタデークラス(土曜日補習授業)およびステップアップクラス(放課後等補習授業)を中止した。
- ・生涯学習の充実
→生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭～を中止した。
- ▲ ・教育のICT化推進事業
→全小中学校の児童生徒一人一台のパソコンを整備するとともに無線LANのアクセスポイントを1学級に1台程度設置した。

「共働き子育てしやすい街ランキング2020」で全国9位の評価
日経DUALが全国151の自治体を対象に実施した、「自治体の子育て支援制度に関する調査」の結果、全国9位の評価を得た

基本目標 2

青梅に暮らし、働き、訪れる人々にとって
魅力あふれるまちを創出



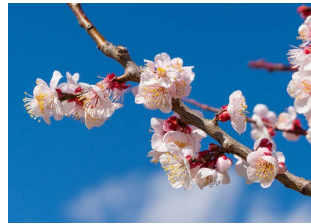
事業の推進状況概要

○梅の里再生事業

ウメ輪紋ウイルス緊急防除にかかる強化対策として、春季・秋季のアブラムシ防除、年3回の感染状況調査を実施した。

また、強化対策地区内の再植栽として、農地等に梅樹320本(累計5,446本)を植栽した。

植物防疫法に基づく国の緊急防除期間の終了に伴い、令和3年3月をもって強化対策事業が終了した。平成25年3月に策定した「梅の里再生計画」は、令和2年度をもって計画期間を満了した。



梅の公園植栽本数(累計) 令和2年度末 1,312本

○おうめものづくり支援・ひとづくり支援事業

中小企業等の経営基盤強化を図るため、製品の企画から製作、産業財産の保護、販路開拓までの過程を包括的に支援する「ものづくり支援事業」と、人材確保から育成、企業間交流、展示会出展支援までをサポートする「ひとづくり支援事業」を実施した。

おうめものづくり支援事業交付件数(累計) 令和元年度末 39件
令和2年度末 45件

おうめひとづくり支援事業交付件数(累計) 令和元年度末 28件
令和2年度末 40件

○吉川英治記念館運営事業

令和2年4月、公益財団法人吉川英治国民文化振興会より、吉川英治記念館の土地、建物および直筆原稿等関係資料約11,000点の寄付を受け、同年9月、新たに「青梅市吉川英治記念館」として開館した。

施設の管理運営については指定管理者制度を導入した。

延べ来館者数 5,939人 開館日数 171日(令和2年9月7日から開館)



青梅市吉川英治記念館の母屋

新型コロナウイルス感染症の影響

- ▼ ・自治体連携による森林ボランティア育成事業
⇒森林ボランティア育成講座の回数を10回から8回に縮小して実施した。
- ・女性の活躍推進事業
⇒女性のスキルアップのためのビジネススクールをオンライン開催に変更した。
- ・新たな住宅施策の推進
⇒定例住宅相談会は毎月開催するところを年5回に回数を減らして実施した。

基本目標 3

将来を見据えた、安全・安心なまちづくりを推進



事業の推進状況概要

○公民連携の推進

市役所1階に市の負担が発生しない広告付き自動窓口受付システムを新たに導入した。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止や新しい生活様式の普及促進等に向けた課題解決に向け民間事業者の知識や技術等を活用した公民連携事業5件を実施した。



自動窓口受付システム
(市民課窓口)

新しい生活様式の実現に向けた公民連携事業

- ・本庁舎1階へ「テレキューブ」の設置
- ・テレワークSPOT一覧の作成
- ・新しい生活様式をとりいれた地域密着型エンターテインメント事業
- ・青梅健康チャンネルの創設
- ・マイクロツーリズム促進事業



テレキューブ(本庁舎1階)

○いつまでも安心して自分らしい暮らしを続けられるような、支えあい体制づくり

高齢者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、介護予防や生活支援等について支えあい体制づくりを推進するため、支会と同じエリアによる第2層協議体を開催。関係者間ネットワークの構築を図るとともに、地域の活動共有や課題などについて話し合いを行った。

第2層協議体実施か所数 8か所 開催回数 延べ48回開催

○自治体間交流事業

かねてから交流がある杉並区との共催で、杉並区民と青梅市民を対象とした森林ボランティア育成講座を開催した。また、杉並フェスタ交流自治体紹介に参加し、来場観客に青梅市の魅力を発信した。

○地域防災力の向上

自主防災組織注における防災士資格取得を支援するとともに、自主防災組織連絡会を4回に開催し、災害時の感染予防対策や分散避難などについて情報共有を図るとともに、地域の防災活動の促進および防災意識の啓発を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響

- ▼ 地域防災力の向上
 - ⇒ 防災リーダー講習会の開催を断念した。
- 消防団の充実
 - ⇒ 女性団員の予防広報活動や保育園等への防災教育活動について実施を取りやめた。
- 自治体間交流事業
 - ⇒ 参加を予定していた高円寺阿波踊りと地域創生・交流自治体連携フォーラムが中止となった。
 - ⇒ 青梅・南相馬スクラム支援子ども交流事業を中止した。